

団体活動取りまとめシート

	自治連合会白井第二小学校区支部	民生委員・児童委員	白井市立白井第二小学校	白井第二小学校区地区社会協議会
強み・自慢・売り	各地区の代表として、地域の実情はよく理解している。	第二小学校区では親との同居が多く、ご近所では大体どこの家のお年寄りなのか、また、どこの家の子どもなのかみんなわかっていて、地域全体で見守っているような傾向にある。	・小規模校の特色を生かした、全校活動に力を入れている。 ・地域と密接に関わりながら、全ての教育活動を進めている。	定期的に毎年実施している行事があり、子供たちに対する行事と高齢者に対する両方の行事をもっている。
組織	自治会で構成。 支部長・副支部長・会計・監査。	東部地区(第一小・第二小・桜台小学校区) 総数 18 名、主任児童委員 2 名を含む。 欠員 2 名。	・県費職員 14 名(校長・教頭・学級担任・専科・養護教諭・事務職員・栄養職員) ・白井市職員 7 名(介助員・学校補助教員・読書活動推進補助教員・日本語指導教員・用務員)	会長・副会長(2 名)・会計・広報(4 名)を中心に理事会があり、推進員が各地区から出ている。
活動の主な収支 (1000 円未満切捨)	[主な収入] 補助金 195,300 円 [主な支出] 防犯関係 80,000 円 その他その年度の事業	[主な収入] 活動費年間約 60,000 円	特にありません	本部からの補助金
主な事業 ①事業名称 ②目的・内容等 ③参加者 ④運営・協力体制 ⑤課題・将来展望	①防犯事業 青色防犯パトロール ②第二小学校区の安全安心のため、毎月2回夕方から1時間程度パトロールを行う。 ③各地区の防犯指導員と自治会の有志。 ④公民センターの協力あり ⑤防犯指導員の研修が必要となっているため、その時期が7月頃となるため、各地区防犯指導員を2名の登録とし、任期をずらして2年にする必要がある。 ①防災事業 ②防災の意識を高めるため。内容は「防災倉庫をのぞいてみよう」や「災害 命を守るための行動とは」のチラシの配布。 ③第二小区の市民。 ④ 10自治会長を中心に、公民センターの協力あり。 ⑤参加者を増やすこと。	生活上の困りごとや心配ごとに関する相談に応じ、必要な支援を受けられるよう専門機関につなぐ役割を行っている。 ①地域への訪問(見守り)活動 ①心配ごと相談の相談員 ①学校訪問 ①米寿祝い品の配達 など	児童教育活動	①「あんたが大将」 ②昔遊びとグランドゴルフの指導 ③子供(第二小の児童) ①「ふれあい食事会」 ②年1回 ③全域の高齢者 ①「いきいきサロン」 ②各地区で1回ずつ ③高齢者 その他要請に応じて、「赤い羽根募金」、「福祉体験活動(車イスの扱い指導)」、「白井音頭指導(第二小)」、公民センターとの協力行事(ほっこり市・ばらっぱまつり)
団体の課題 ①人、②もの、③お金、④その他	① 1年交代が8地区、2年交代が2地区となっている。	①民生・児童委員のなり手がいない。	・特色ある活動をする場合、指導者、資金等が不足することがある。 ・イベント実施に係る交通手段不足 ・駐車場の確保	①推進員になる人が減ってきた。 具体的な行事に参加する人が決まってしまう。(ボランティアだから強制はできない)
団体の将来展望	10自治会はそれぞれ地区行事等で独立しているが、第二小学校区全体を見据えた事業を行っていききたい。	他の地区団体(子ども会、婦人会等)との関わりを積極的に持ち、情報をお互いに提供し合うようになるといいのではないかな。	・地域と一体化した教育活動の実現 ・地域の中の情報発信活動	地域の連携において、福祉面が中心になるので、ますます必要とされる団体だが、まちづくりの視点から協力して楽しくやっていく雰囲気変わっていく必要がある。
団体活動を通して感じる地域課題	支部で行う事業が共通の課題となっているが、検討を十分にすることが必要。	・海外からの児童・生徒の受入体制 ・自転車通学している中学生の安全確保 ・子ども同士での遊びが困難(家が離れている)	学区内にある自然や歴史など魅力ある資源等を、地域の中に広め活用していく。	・将来を考えて必要と思われる事でも、今何とか間に合っているために、自助(家庭だけの自助)から互助、共助、公助への意識が薄い。 ・保守的な人々が多いので、新しいことを創造していくことに消極的。 ・若い人々に、子どもの活動が盛んになるべき年代だが、高齢者が動かざるを得ない状況がずっと続いている。 ・問題を出しても、どうせダメだろうというあきらめ感があり、新しいアイデアが生まれにくい

一般社団法人白井工業団地協議会

<p>強み・自慢・売り</p>	<p>白井工業団地協議会は、1970年10月に発足し、進出企業の親睦・交流事業や関係機関との連絡調整の場として活動を開始し、2010年(平成22年)4月には、一般社団法人となって、活動の範囲を広げ今日に至っている。</p> <p>当協議会の会員数は、2020年12月現在、正会員及び賛助会員を合わせて223社で関連企業を含めると260社以上となっていて、専任の事務局を設けて安定した組織体制による運営となっている。</p> <p>白井工業団地には、鉄鋼業、プラスチック製品・金属製品・非鉄金属製品・一般機械器具・精密機械器具・木製品及び食料品などの製造業や運輸業、金属材料等卸業、建築・土木工事業、建築・土木資材機器等リース業、産業廃棄物処理業、クリーニング業など、多種多様な業種の事業所が約300社操業しており、千葉県内で最大規模の内陸工業団地となっている。</p> <p>当協議会の活動は、会員同士の親睦交流を図ることをはじめ、企業活動における諸課題の解決を図る「活動する協議会」として、明瞭で確実な運営により多種多様な事業を推進し、地域経済の活性化などに貢献している。</p>
<p>組織</p>	<p>当協議会の役員構成は、理事30人、監事2人となっており、理事のうち、代表理事1人、副代表理事3人、専務理事1人(事務局長)とし、これを3役とし、理事会及び3役会は、定例で開催している。</p> <p>また、各種事業を推進するため、「渉外総務委員会」、「産業振興・地域交流推進委員会」、「労働安全衛生推進委員会」、「環境整備・交通対策委員会」の4つの委員会と「青年部」を設置して、分野毎の取組みを行っている。</p> <p>さらに、白井工業団地を7つのブロックに分け、それぞれにブロック幹事・副幹事を配置し、地域の意見や課題などの把握と解決を図っている。</p> <p>なお、(一社)船橋労働基準協会に団体加入しており、白井支部担当役員を設け、労働安全衛生の普及と労働災害の防止などを行っている。</p>
<p>活動の 主な収支 (1000円未満切捨)</p>	<p>当協議会の運営に当たって、収入は、会費、各種助成金、各種事業の参加負担金及び賃貸料などで、支出は、事務局経費、技能講習実施経費、会議等運営経費、各種団体加盟経費及び賃借料などとなっていて、年間の収入及び支出共に45,000千円程度で均衡が保たれている。</p>
<p>主な事業</p> <p>①事業名称</p> <p>②目的・内容等</p> <p>③参加者</p> <p>④運営・協力体制</p> <p>⑤課題・将来展望</p>	<p>(1)親睦交流事業(親善野球大会、賀詞交歓会など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員企業やそこで働く従業員の親睦と交流を促進し、連帯意識の高揚などを行っている。 <p>(2)各種技能講習事業(フォークリフト運転技能講習、玉掛け技能講習、クレーン運転技能講習、ガス溶接技能講習など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員の資質向上を図るとともに、有資格者による作業の徹底などを行うことにより、労働災害の防止と労働安全衛生意識の高揚を図っている。 <p>(3)福利厚生等支援事業(合同健康診断、合同インフルエンザ予防接種、井戸水の水質検査など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業が多数となっていることから、従業員の健康増進を図るため合同して各事業を行っている。 <p>(4)労働安全衛生推進事業(全国安全週間、全国衛生週間、年末年始無災害運動など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働災害を防止するため、労働基準監督署や(一社)船橋労働基準協会と連携し労働安全衛生に関する知識の普及と意識の高揚を図っている。 <p>(5)地域連携・支援事業(納涼盆踊り大会、春と秋の工業団地内一斉清掃・ごみゼロ運動、白井高校や市内小中学校のキャリア教育支援事業、職業体験の支援など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統の継承や生活環境の保全などを行うため、白井工業団地自治会と連携して納涼盆踊り大会やごみゼロ運動を実施するとともに、白井高校や市内中学校のキャリア教育の支援(助成金など)や工場見学などを通して地域の小学校の学習支援を積極的に図っている。 <p>(6)駐車場運営事業(交通安全、路上駐車対策として)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業団地内における路上駐車を防止するため、駐車場を確保してその運営を行うとともに、各企業や出入業者等への交通マナーの普及などを行っている。 <p>(7)白井工業団地産業振興センター運営事業(コンビニ・ローソンの誘致及びサテライト相談、知財総合支援相談の開催など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該施設を整備し、各企業の経営、労務や知的財産に関する相談を専門家を招いて定期的に開催するとともに、コンビニエンスストアを誘致して地域の購買環境の利便性を確保している。 <p>(8)防犯事業(長期休業期間中の防犯パトロールなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業団地内の窃盗事件などを防止するため、企業の長期休業期間(5月の連休、夏季休業、年末年始の休業など)に警備会社によるパトロールを実施するとともに、各企業に防犯対策の実施や防犯意識の高揚などを行っている。 <p>(9)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の会報の発行やホームページの運用などにより、情報の共有と積極的な情報発信を行うとともに、関係機関との連携により、都度様々な事業を行っている。
<p>団体の課題</p> <p>①人、②もの、③お金、④その他</p>	<p>(1)上水道の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下水汚染がみられる中、工業団地に上水道の整備を望むものである。 <p>(2)幹線道路の整備(新設道路の早期整備、歩道の整備、定期的な路面補修など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業団地アクセス道路の早期整備完了と桜台地区からの構想道路の早期の整備着手とともに、工業団地内の幹線道路の歩道の整備や細部にわたる舗装面の定期的な補修を望むものである。 <p>(3)雨水排水施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水排水施設が整備されていない地区の計画的な施設整備や台風等の大雨時の冠水対策の早期実施を望むものである。 <p>(4)路線バスの拡充(便数の増便、路線の延伸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス及び市営バスの増便とともに、路線バスの第2工業団地への乗り入れ(路線延長)を望むものである。 <p>(5)公民センターの機能拡充</p>

	<p>・公民センターにおいては、会員向けの講習会のほかに地域の方も参加できるセミナーやイベント(展示会、合同企業説明会など)などの開催に向け、Wi-Fiの整備とセミナー・イベント専用ルームの整備を望むものである。</p> <p>(6)地域との連携強化</p> <p>・工業団地周辺の地域との交流や地域活性化に向けた取組みを連携して行うとともに、市内小中学校とのキャリアを教育の支援を通じた交流を推進するものである。</p>
<p>団体の将来展望</p>	<p>当協議会は、これまでの会員相互の親睦交流事業、労働安全衛生推進事業、各種技能講習等実施事業、福利厚生支援事業及び産学連携推進事業などを拡充しながら推進し、組織力の強化を図るとともに、地域の伝統や文化の伝承の支援、キャリア教育の支援、防犯、防災、交通安全活動及び環境保全活動の協同実施、農商工連携事業の試みなどを地域や地域の各種団体等と協働して行い、地域の活性化にも積極的に貢献していきたい。</p>
<p>団体活動を通して感じる地域課題</p>	<p>(1)地元就業・雇用の促進</p> <p>・白井工業団地には、約300社が立地し7,000人以上が就労しているが、このうち市内在住者は、900人以下で13%程度となっており、地元雇用が少ない状況である。</p> <p>(2)認知度の向上</p> <p>・白井工業団地は、県内最大規模の内陸工業団地で優良企業が立地しており、また、当協議会は、創設から50年以上にわたり活動してきたものの、それぞれ地域における認知度は高くない状況である。</p> <p>(3)地域の連帯感の醸成</p> <p>・工業団地周辺地域との交流が一部地域にとどまっており、地域の住民団体などとの交流がほとんどない状況である。</p> <p>(4)農業とのコラボレーションの創造</p> <p>・工業団地内には、製造業や卸・小売業やサービス業などの様々な企業が操業しているが、地域の基幹産業である農業とのコラボレーションがない状況である。</p> <p>(5)行政や関係団体等との連携強化</p> <p>・地元自治体や公共公益団体等との関わりが一部事業にとどまっており、多方面にわたる総合的な連携が希薄となっている。</p>

	おはなしのたまてばこ	白井市消防団第三分団
強み・自慢・売り	“細く長く、第二小と共に！”をモットーに続けています。	災害等非常時に地域の安全を組織的に守れる。
組織		消防団は、消防組織法第 9 条に基づいて市町村に設置される消防機関です。白井市消防団は第一分団、第二分団、第三分団の3つの分団に分かれており、第二小学校区は第三分団（一部第一小学校区河原子部が含まれます）に属します。 組織：団長 1 人、副団長 3 人（各分団の区域から 1 人）、本部長 6 人（各分団の区域から 2 人）、第三分団長 1 人、第三副分団長 3 人（①②③から 1 人ずつ）、各部（部長・班長・団員） （①富塚部・中部・折立部②今井部・名内部・小名内部③平塚東部・平塚西部・河原子部） 各部定員 15 人 現状 3 年 1 月現在（富塚部 12 人 今井部 11 人 名内部 13 人 小名内部 2 人 平塚東部 16 人 平塚西部 14 人 河原子部 4 人） 機能別消防団員（火災等非常時のみ活動する団員）8 人（主に小名内部 OB）
活動の主な収支（1000 円未満切捨）	コープみらい地域クラブに登録し、その活動費の中から活動に必要なものを購入しています。	消防車両委託費・消防施設等維持管理費 ・小型ポンプ 90,000 円/年 ポンプ車 125,000 円/年で日常的な管理費として市から支払われています。この他、各部により異なりますが、区（自治会）より消防団活動のための経費として各部で支給を受けている部があります。
主な事業 ①事業名称 ②目的・内容等 ③参加者 ④運営・協力体制 ⑤課題・将来展望	①白井第二小学校での読み聞かせ「おはなしのたまてばこ」 ②月 2 回、朝の読書タイムに教室に伺って、絵本や紙芝居を読む。子ども達に少しでも本の楽しさを知ってもらいたいと願い 27 年目になる。	①火災等出動 ②火災時に消防署に協力し、水利から小型ポンプ、ポンプ車（平塚東部のみ）での水の送水や火点までの距離のある場合、水の中継を行うほか、消火活動に必要な交通整理等の後方支援を行います。場合によっては直接消火活動を行う場合があります。 ・消火終了後、再燃の恐れがなくなるまで火災が発生した区域を担当する部が、火災現場の監視活動を行っています（消防署の最終確認が終了するまで）。 ・台風、水害等の際の警戒活動 ・行方不明者等の捜索活動：警察等の要請により、行方不明者の捜索活動等に協力しています。 ③消防団員 ④火災の場合は、火災の規模により第 1 次出動、第 2 次出動等の範囲が定められていますが、現場では指揮本部が設置され、指揮本部の指揮により必要な活動を団長・副団長等の指示により出動した各部が協力して行っています。 ⑤少子化、高齢化等により各部の団員が減少、サラリーマン等で昼間市内にいない団員が増加し、災害等の出動が難しい部が多くなってきているなど活動そのものが停滞傾向にある。 これらの課題を解決するため、消防団員の不足する部に災害等非常時のみ出動できる機能別消防団員（消防団 OB）の制度を設けたが、根本的な解決まで至っていない。 ①訓練 ②火災等緊急時に備え、夏季・冬季の 2 回、小型ポンプ、ポンプ車の操作、水の中継、消火栓、無線等の取り扱い訓練、雨天等の場合は救命講習等を実施しています。 ・操法大会：ポンプ等の操作技術向上のため、隔年で市全体で小型ポンプ操法・ポンプ車操法の大会を白井市消防団全体で開催しています。 ・日常点検：緊急時に機器が正常に作動するよう、毎月ポンプ、車両等の点検動作確認を実施しています（各部により頻度等は異なる（業務委託契約により月 2 回以上の点検となっています））。 ・防火水槽等管理：防火水槽周辺の草刈り、水槽点検等を各部が実施しています。2 年に 1 度消防団本部による各部の装備等の確認が実施されています。 ③消防団員 ④訓練等は市消防団、日常点検は各部 ①啓発 ②火災予防運動等の啓発を各部ごとに行っています。団長の指示により消防団全体で実施。 ①行事等参加 ②各区（自治会）の要請により、神社の行事、地区の行事等に参加し、警備等に当たっています。
団体の課題 ①人、②もの、③お金、④その他		①少子化、高齢化、農業等からサラリーマンなどへの職業の変化などにより消防団員のなり手が不足しているほか、昼間市内にいないなど、火災等非常時に出動できる体制が整わない。 ②装備については、市から支給されるが近年市内に 4 台あったポンプ車が平塚東部を除き小型ポンプ積載車両に変更（第 3 分団では富塚部）されている。小型ポンプも使用年数が長くなっているものが増えてきており、火災時に長時間使用する場合、途中で不具合が生じる事例が生じるなどしている。火災の規模や消火まで数日を要するような火災などでは、ポンプ車を複数台配備しないと消火栓等の設備がない地区では消火活動が円滑に行えない恐れがある。 ③装備等の維持管理費は、市からの委託金で賄えるが、団員が活動する際の経費として区（自治会）から消防団に支給している地区もあるが、区の規模等により金額の差がある他、区（自治会）に加入していない世帯からの協力が得られないなどの課題がある。 ④団員数の減少により、部そのものの存続が現状の体制では難しい状況になっている地区もあることから、部の再編等も検討する必要が生じている。
団体の将来展望	現在の環境で、コツコツ続けていきたい	災害等非常時に組織的に地域を守る団体として、活動に対する地域の理解、協力が得られることが組織を維持していくためには不可欠。
団体活動を通して感じる地域課題	特になし	従前は消防団には 1 度は入団するような流れがあったため、消防団活動に対する住民の理解、協力が自然とできていたが、最近は消防団がなぜ必要なのかと疑問を呈する方、他から移住してきた方は消防団そのものを知らない方、自治会に加入しない方もおり、防災に対する意識の共有が図れていないと感じることがあります。

	中つくし会 高齢者クラブ	NPO 法人しろい環境塾	白井第二小学校 PTA	青少年相談員連絡協議会
強み・自慢・売り	中つくし会は、仲間づくり、社会参加の場	旧平塚分校に事務所、同平塚に作業拠点（ベースキャンプ）を有し、主に白井市内の里地里山の環境保全活動を行う。週3日に1日平均30人のボランティアが活動している。活動には5台の車両と機材を保有し、機動力を備えた組織である。	他の学区と比べて家庭数が少ないので、顔と名前を憶えやすい。全家庭が参加している。	メンバーが持っているものを活かし、長年継続して実施してきた活動実績。
組織	60歳代から90歳までの会員83人(男44人、女39人) 役員は会長1人、副会長1人、会計1人、芸能担当1人	①里山保全部②農業支援部③市民交流部④子どもの環境教育部⑤施設管理部⑥事務局を置く	73(世帯数)+教職員。 本部役員=会長、副会長2名、幹事4名、会計監査1名 総務委員会=本部役員、支会長4名、各委員会部長2名 理事会=総務委員会、環境整備部委員3名、学級・研修部委員11名	31人(第20期青少年相談員)のうち、第二小学校区は3名。 任期:3年間 年齢層:20歳代~50歳代
活動の主な収支 (1000円未満切捨)	[主な収入] 市補助金100,000円 年会費83,000円 助成金30,000円 [主な支出] 事業費・行事費(社会奉仕活動など)120,000円 雑費24,000円 分担金(白井高連年会費18,300円会議費、事務費など)	[収入] 企業からの助成金・補助金 市の委託事業収入、農業者支援活動収入、講習会等の参加費、地域イベント参加による産品販売売り上げ等 [支出] 燃料費、修繕費、消耗品費、印刷費、備品費	[主な収入] 会費(年4,800円)427,200円など [主な支出] 運営費306,000円 学校援助費220,000円 予備費190,000円 特別予算91,000円 送別会費17,800円ほか	収入:地区活動助成金20,000円(2020年度は活動ができていないため、収支報告はありません) 支出:消耗品費(用紙代、コピー印刷代)5,000円。
主な事業 ①事業名称 ②目的・内容等 ③参加者 ④運営・協力体制 ⑤課題・将来展望	①社会奉仕活動 ②社会奉仕の日に伴う集会所・神社・通学路・幹線道路沿い等の清掃活動 ③活動時20人程度参加 ④会で運営、自治会が協力 ⑤高齢者が多数のため参加者限定、会員の高齢化に伴い、活動内容の縮小 ①女性部の活動 ②ゲーム・歌・お茶会 ③毎回10人程度参加	①運動公園の森維持管理作業 ①たんぼの学校 ①親子で稲作を学ぶ ①里山まつり 秋に年1回 音楽会その他のイベントを平塚で開催 ①各種体験講習会 ①そば・小麦の栽培体験講習 ①手賀沼船上観察会	①夏季パトロール ②夏休み期間中の好きな日時に回れる範囲で危険箇所などがなければ、パトロールする ③児童・保護者 ④支会長(校外指導部) ⑤家庭数減少でパトロール日数が増えるかもしれない	①相談員ポスト ②第二小学校に相談員ポストを設置し、みんなからの相談に答えていました。 ⑤現状、活動が出来ていないため(相談員ポスト含む)、2021年度は、公民センターを利用させていただきお泊まり会を計画している。
団体の課題 ①人、②もの、③お金、④その他	①役員のみ手がない。役員への負担が多い。 ③補助金の増額	①活動者の高齢化による後継者不足 ③機材・備品購入資金の不足	④少子化による家庭数減で、人、お金も減ってしまうのではないかと懸念される	①仕事が多忙で、会議や活動に参加できない相談員が多く、若くて子供・世話好きな人がほしい。 ・ボランティアは毎回個人のネットワークで協力要請しているが、安定的に確保したい。 ・参加者が増えない傾向がある。」
団体の将来展望	会員の友愛活動、社会貢献、健康づくりなど	2020年に20周年を迎えたが、しろい環境塾の認知度が向上し、新入会員も増えつつある。	無理のないPTA活動 継続してやる役員さんを増やして楽しいPTA活動	色々な人が持つ知識や能力を活かし活動を充実させたい。まずは青少年相談員の名前、存在を地域に知ってもらうことから始めたい。
団体活動を通して感じる地域課題	行政、自治会の連携が必要	時代と共に、休耕地や荒れた林地が増加し、里地里山環境が悪化している。どうしたら良いのか。	第二小学校区内の少子化による家庭数減少 特認校なので学区外から通う児童もいるが、学区外の家は学区内の事まで把握できないと思う。(危険箇所など)	子供たちのコミュニケーション力の不足→挨拶の習慣づけが必要。

	平塚(東西)	中区	中峠団地自治会	折立
強み・自慢・売り	地域のつながりが強い 神社等の行事の継続 (平塚東西で分かれているがすべて一緒に活動)	近所まわりがほぼ知り 合い	会員の移動が少ない為、住民のコミュニケーションが深い住民どうしの付き合いが長い	①寺(来迎寺)、神社(熊野神社)の双方を構える地域で、歴史もある区域。 *元禄14年(1701年)に折立村が火災のため神社・寺および村が焼失し、村等の起源が不明である。 ②折立菖蒲園があり、5月の“菖蒲祭り”には区内のみならず多くの参加者がみえる。 ③白井市の特産品‘梨’の栽培に注力している。 ④区の中を国道16号線が通り、また464号線も近く、北総線へのアクセスも便利で交通の便には恵まれている。 ⑤“のどかで緑のある地区”で自然にも恵まれている。
組織	平塚東西 区長2・区長代理2 監査2・会計2 基金管理:監査2会計2 東(7班) 西(6班)	地区在住	会長 1班(監事) 市環境委員 防犯指導員 副会長 2班(監事) 環境指導員 防犯指導員 会計 3班(監事) 市環境委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 区長、班長(4班)、生活環境委員、防犯委員、道路整備委員、周辺環境委員、 ● 区内を4班に分け市等の情報を伝えている。他に地区自営消防団を組織している。 ● 区域としては約80件の区であり、情報伝達は早い。 ● 過去には‘子供会’があり、神輿行事など実施した。
活動の主な収支 (1000円未満切捨)	収入: 区費、市補助金 市交付金 等 支出: 各団体等に補助金 会議費、行事費 等	戸別に区費を集金	42世帯 収入:町会費 1世帯 500円×12か月 6,000円×42=252,000 道路整備費 1世帯 500円×12 か月 6,000×42=252,000	<p>① 収入:地区費、市よりの補助金等</p> <p>② 支出:環境活動費(ごみゼロ、道路・池・水路清掃事業等)、防犯灯修理代、会議費、事務消耗品費、行事支出、電気料金、保険代、負担金、諸手当</p>
主な事業 ①事業名称 ②目的・内容等 ③参加者 ④運営・協力体制 ⑤課題・将来展望	ゴミゼロ運動、八坂神社 祭礼、鳥見神社祭礼、大 般若経読会、等	庚申請(既婚男性) 子安講(子供のいる 女性) お囃子同好会、お歩 射(氏子)、夏秋祭り (氏子)	新年会、役員会、グランドゴルフ、 総会、ゴミゼロ運動	<ul style="list-style-type: none"> ● ごみゼロ(通学路清掃等含む):不法投棄の収集・道路清掃、40名程度、区内有志 ● 弁天池清掃事業:池の除草・清掃、20名程度、有志、ヘドロ堆積物の撤去が課題、“親水公園”等の新たな目的設定が必要(公有地一過去は農業用溜池) ● 排水路清掃作業:水路清掃・樹木の整理等、30名程度、区内有志、水路内体積土砂の撤去および整備が必要(水路改修含め課題) ● 防犯活動:区内の安全・安心の確保、年5回程度、第二小学校区内、防犯委員・班長等 ● 菖蒲園祭り・清掃作業:5月の祭り・定期的な清掃整備、120名程度、菖蒲園祭り実行委員会 ● 秋の祭礼:1年の作物の収穫を祝う行事、20名程、区内、高齢化・参加者の減少化 ● 御歩射:本来は年頭で豊作・安全を願う行事一区の取り決め事を話し合う場(賀詞交換会)、20名程、氏子、参加者の減少化
団体の課題 ①人、②もの、③お金、④その他	上記のほとんどは世襲制の様なものなので将来は縮小していくのでは?	会員の高齢化		<p>① 地区内人口の高齢化と共に少子化</p> <p>② 産業である梨栽培の後継者育成</p> <p>③ 都市インフラ(道路、水路、水道、下水道等)整備のための多額の費用</p>
団体の将来展望			今までの事業計画の継続	<p>① 農家(主に梨栽培者)の後継育成</p> <p>② 少子化の対策一市の抱える問題と同様“魅力あるまち”づくり</p> <p>③ “コンパクト・シティー”の利点を生かした都市(街)づくり</p>
団体活動を通して感じる地域課題	地区周辺の不法投棄、高齢化		会員の高齢化により全世帯参加がむずかしい。 世代交代	<p>① 高齢化と少子化の対策:若年層は農家を継承する割合が減少、地区外に就労場所を求めている。</p> <p>② 地区インフラの整備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地区内道路と排水路の整備 <ul style="list-style-type: none"> ● 昭和後期に整備した水路の未了部分の早期整備実現。これにより道路排水の確保と共に環境整備に寄与する(公共下水道区域外のため合併浄化槽の整備促進が必要一環境負荷の軽減) 2. 弁天池の清掃・整備 <ul style="list-style-type: none"> ● 区域外からの排水等で池内に多量の土砂等の堆積が本来の溜池又は調整池の機能を成していない。また、少量の降雨により池が溢水し近隣に浸水被害をもたらす(国道16号線下の配管整備要) ● 市として「弁天池」の機能を位置づける必要がある。 3. 白井市水道事業の促進による飲料水の安定供給 4. 都市計画道路の整備促進による国道16号線の渋滞緩和(七次台から桜台～工業団地経由)と市内アクセスの向上

	富塚区	白井工業団地自治会	小名内自治会	今井	名内
強み・自慢・売り	地区の班によっては月1回男性女性それぞれの親睦会を1回も休みなく、40年続いている。男性は年1回の旅行も続いている。	高齢ながらも、まとまりのある会である。	希薄になりつつあるが、ご近所の顔が見える関係がある。	特になし	名内には鳥見神社(産砂)と粟嶋神社があり、粟嶋神社では1月3日には祭事が開催されお守りなどの販売がある。また3月3日の節句の日には人形の供養があり、地元や近隣などから人形やお雛様等が持ち込まれる。
組織	区長、他(地区をA・B・C・Dに分けている)	会長 顧問 班長 防災委員会 副会長 会計 防犯委員 防災委員 事務局 会計監査 生活環委員 協議会連絡係	区長、区長代理、班長4人、評議員3人、班員27戸、社総代、土地改良役員、統計委員、共済	区長、区長代理、組長4組、神社責任者	自治会役員は、区長、区長代理、寺世話人、神社総代等の役員で構成されている。
活動の主な収支(1000円未満切捨)	活動していないので収支なし	会員会費 忘年会費 助成金 賀詞交歓会費	収入:自治会費 6,000円×27戸 162,000円 市助成金 支出:集会費 4万円 集会所維持管理費 5万円 防犯灯管理費 5万円 寄付金 3万円他 消防費	収入 自治会費 40戸より、市の助成金 支出 神社の祭り、集会所経費	各家庭からの徴収により運営をしています。 収入 自治会費 6,000円×57戸=342,000 と市助成金 支出 集会費 12万円 貯水槽地代 6万円 他
主な事業 ①事業名称 ②目的・内容等 ③参加者 ④運営・協力体制 ⑤課題・将来展望	<ul style="list-style-type: none"> 市とその他からの回覧の配布 協力体制はあると思うが、何か始めようとする話が出ると、議論にならず消える。 	賀詞交歓会・ゴミゼロ・忘年会 ほか	【地区行事】 元旦祭、初集会、おびしゃ、大師様、ごみゼロ、みやなぎ、浅間様、祭り(秋の例大祭)、暮掃除 【神社関係】 お礼配布(晦日払い、氏神様、新年礼) 土地改良関係、役員会、集金	ゴミゼロ(役員のみ) 神社、集会所そうじ、(全員参加) 神社祭り(役員のみ)	地区行事 初集会、おびしゃ、大師様、ごみゼロ運動、浅間様、祭り(秋の礼祭)、4月・12月掃除
団体の課題 ①人、②もの、③お金、④その他	当地区は会員同志の親睦から始めたいと思う。	高齢化の進む中での自治会の役員の人選問題	集会の参加者の減少、役員選出が難しい、会員の減少、当番引き受け困難世帯の増加、神社の老朽化、石碑の風化(資金不足)	人の減少と行事内容	氏子や世帯数が減少傾向にある 神社の老朽化
団体の将来展望	当地区では班ごと自治会を退会している。(現在5の班の退会)理由は、自治会に入会していても、何も変わらないから。	現在の維持継続	加入世帯の減少、高齢化	自治会への参加減少	高齢化
団体活動を通して感じる地域課題	現状を見る限り、当地区はまだ離脱する班があると思う。(市からも自治会に介入しなければ、何々とあれば自治会としても動きやすいと思う)	ゴミの集積場所の問題	世帯の高齢化、世代交代できない。消防団の後継者不足、高齢者単独世帯の増加、農地の荒廃空家の増加も懸念される	年配者が増え、集まるのが難しい	若者などの人口が減少傾向にあり、自治会役員等の人選が負担になってくる。